

石 仏 散 歩

すとーん・さーくる

No.104

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2019年3月15日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

佐渡市米郷集落の秋葉山塔

台ヶ鼻古墳の石室天井石を転用した石塔

佐渡市 北見継仁

火伏せの神として広く知られている「三尺坊」は、伝承によれば信濃出身で、越後の柄尾蔵王堂所属の修驗者であったといわれている。一般に秋葉山あるいは秋葉大権現と呼ばれており、室町時代には修驗者によって全国的に広まり、庶民の厚い信仰を受けている。江戸時代の佐渡には約二六〇の村があったが、秋葉山塔の総数は一九二基を数えることができ、多くの集落で盛んに建立されたことがわかる。これは、江戸後期の文化・文政・天保期に島内で火事が頻発し、防火の願いを込めて建てられたことが理由と考えられる。

『佐渡国略記』を見ると、宝暦期に「米郷村で百姓屋七・八軒焼く」という記事がある。またこの石塔が建立された前年の文久元年（一八六一）には、両津地区頼の集落で灰小屋より出火し一七軒が類焼している。

佐渡島内の秋葉山塔は、自然石に「秋葉山権現」、「秋葉大権現」あるいは単に「秋葉山」と刻んだ文字塔が多い。

相川地区の米郷集落の道路脇にある秋葉山塔は、近隣の二見半島にある岬に、六世紀中頃につくられた台ヶ鼻古墳（新潟県指定記念物）の石室の天井石

が、石塔に転用されたと伝えられている。松田興吉氏の「佐渡古墳順礼」（『佐渡史苑』第二号）によれば「此石郭の蓋石が秋葉山塔になりて米郷金七の裏道端に建てられ、外にも其用材石は利用されてあるといふ」と記述されている。

台ヶ鼻古墳は明治時代に盗掘されており、その際に須恵器や鉄刀（直刀）・人骨等が出土したといわれているが、出土品の所在は現在不明である。佐渡で発見された古墳のほとんどは真野湾沿いにあるが、相川地区の二見半島ではこの遺跡を含み九基の古墳が確認されている。

米郷の秋葉山塔は、高さ一四〇cm、幅一二三cm、台石の高さは一一〇cmである。表面には「文久二秋 米郷講中 秋葉山 世話人 渡邊七十郎」と彫られており、石材は海岸の転石を一部加工して使用したのではないかと思われる。



台ヶ鼻古墳遠景
(中央部下)



秋葉山塔

※台ヶ鼻古墳遠景写真は、『台ヶ鼻古墳』（佐渡市教育委員会発行）より転載しトリミングしたもの

旧北国街道福井宿を歩く

下越新潟地区 石仏探訪会に参加して

弥彦村 柏原路子

五月二十五日、平日であつたものの、天候に恵まれて、会員・一般合わせて二十一人の参加者があつた。

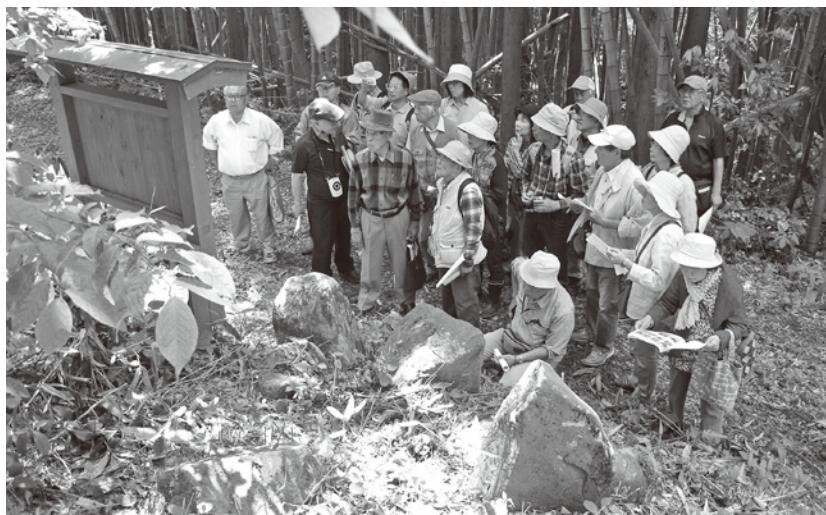
旧巻町（現新潟市西蒲区）のすぐ近く、弥彦村に住む私は、これまで佐藤家のほか、山谷古墳・船山神社（彌彦神社攝社）・三根山藩址公園（米百俵の碑）・旧藩校入徳館跡・百間道路・御井戸遺跡などの旧跡は時々訪れていた。今回予定された探訪先は初めてのところが多く、期待に胸が膨らんだ。

集合場所は新潟市西蒲区福井にある「旧庄屋佐藤家住宅」。この日案内していただくのは、NPO法人福井旧庄屋佐藤家保存会理事長の平岡一郎さんで、事務局の斎藤文夫さんとともに佐藤家の囲炉裏で会員が集合するのを待つておられた。

佐藤家の説明を聞いた後、今日は一日徒歩で廻る予定とのことであつた。各自車を駐車場に置いて福井宿を歩きはじめた。福

井名物「柚餅子の本問屋」を横目に、まず一山寺とその裏山にある脱苦山靈場の三十三觀音札所に向かつた。

ここは今は訪れる人とてなく、茅や雑草が鬱蒼と生い茂つていたが、我々が石仏を見学しやすいよう、保存会の方たちがあらかじめ刈つてくださつていた。おかげで自然石に線刻された素朴な觀音様群や閻魔様・脱衣婆等にも会うことができた。



脱苦山三十三觀音靈場の見学

一山寺は三根山藩主牧野家の分家（長岡藩主牧野家の分家）の菩提寺であるが、初代から十一代までの苔むした墓があつた。藩主は代々江戸詰めだったという。近くに、「茶塚」とよばれる三根山藩の刑場跡があり、地蔵尊が祀られていた。入口に嘉永二年の庚申塔があつた。

隆崇寺は三根山藩家臣の墓所で、本尊の薬師如来は目の病気にご利益があるといわれる。境内には長岡藩家老山本帶刀の妹教子が当藩家老神戸武正に嫁いでおり、同女の墓もあつた。

昼食は日帰り温泉施設「じょんのび館」でゆっくりとつた。残念ながら自慢のお風呂は断念して、敷地内にある角田山自然館を見学することにした。午後はここからほたる飛翔地湿原のある「ほたるの里公園」



線彫り觀音像（脱苦山）



大きな宝冠の観音（同）



馬頭觀音（堂の脇）

を通り、堂の腰付近の古道をゆっくり散策した。この道からちょっと脇の竹藪に入る中に小道があり、三面八臂坐像、馬頭印、憤怒相の馬頭觀音に出会うことができた（写真）。台座右側に石工稻島村石崎平三（とうじまむらいそざきひらぞう）という名が刻まれていた。稻島村はここから街道沿いに少し新潟方面に下った角田山麓の村である。

旧庄屋佐藤家住宅前で



元の古道に戻り、そのまま道なりに佐藤家の方に進むと矢垂川（やたれ）にぶつかり、橋を渡った。広い川幅は湿原が多く、この辺りは蛍の名所としてよく知られている。現在は六月の最終土日頃、「ほたるの里公園」で「福井ほたる祭り」が開かれているようだ。この川の支流あたりが縄文晩期の「御井戸

んでおらず像容がよく見て取れる。

遺跡」であるが、現在は遺跡はむろん地面の下であるから説明板があるだけだ。ここから出発点の佐藤家住宅はすぐ目の前であった。この見学会は実際に爽やかな五月晴れの楽しい一日であった。ガイドを引き受けてくださった平岡一郎さんにお礼を申し上げて福井を後にした。



平沢清水の石仏

左の石仏は今回の見学地からほど近い、ゴルフ場を挟んだ角田山側の平沢清水の近くにあるものです。これも頭に巻いた角（宝冠）が見えます。何と言う石仏なのか、もしわかる人がいたら教えて下さい。

これも牛頭天王？



事務局だより



◇上越地区見学会のお知らせ

期日 4月29日（祝日）
テーマ 北国街道の石仏探訪Ⅳ（最終回）
集合 ①JR直江津駅南口 9時00分
②JR犀潟駅 9時35分
見学地 上越市犀潟・柏崎市青海川

昼食 マリンホテルハマナス
解散 ①JR青海川駅 15時30分
②JR犀潟駅 16時00分
③JR直江津駅南口 16時20分

参加費 3800円（昼食代・資料代等含む）
定員 30名
申込み やまだ漫歩迄（電話かEメールで）
電話 090-4621-4149
Eメール manpol970@docomo.ne.jp
※詳細は別紙チラシを「」覗ください。

◇新潟・下越地区見学会のご案内

日時 5月20日（月）9時～16時
テーマ 三国街道中通りを歩く
一村上市の旧神林村を中心に――

見学地	平林城跡 千眼寺の石仏群
桃川の六面幢 牧目の板碑群	
その他（検討中）	
参加費	3500円（昼食代・バス代含む）
定員	20名
申込み	下越・新潟地区事務局 大木禪爾
電話	0256-72-6913
携帯	090-1557-5936
日時	5月12日（日）13時～16時30分
会場	長岡市中央図書館講堂（予定）
第一部	公開講演会（13時～14時30分）
講師	（打診中）
第二部	総会
平成30年度事業報告・決算報告	
役員の変更について	
平成31年度事業計画・予算（案）	
その他	

◇本の紹介

9時少し前にお集まりください
新潟到着 越後線 8時45分
信越線 8時53分

『長野県道祖神碑一覧』（長野県民俗の会編・平成30年11月刊・二〇六頁・非売品）

長野県民俗の会では、同県の道祖神碑の全貌を把握しようと、道祖神碑の所在・碑銘・種別（文字碑・双体像等）・寸法等を網羅した報告書を刊行した。既刊の報告書や市町村史、関係論考を精査し、総数六五四四基のデータを収載した労作である。

種別で最多はやはり双体像で二九一三基、全体の45パーセントを占める。とりわけ安曇野を含む中信地域では五割強。他にも单体像はじめ文字碑や自然石、石祠や丸石など多様な形態があるが、その中で改めて双体像の優位が浮き彫りになつた。（渡邊）

長野県道祖神碑一覧

長野県民俗の会

◇会費納入のお願い

平成30年度会費未納の方に振込用紙を同封しました。至急お振込願います。

編集担当 下越・新潟地区事務局